

第 68 回 毎日書道展中国展

漢字、かな、近代詩文書、大字書、篆刻、刻字、前衛の 7 部門にわたり、毎日書道展の入賞・入選作品のうち、山口県をのぞく中国 4 県の作品や、全国 10 会場を巡回する毎日書道展役員の作品など約 900 点が展示されました。

期日 8月23日(火)～28日(日)
会場 広島県立美術館 地下1階県民ギャラリー

■ 開展式

日時 8月23日(火) 午前10時～
会場 広島県立美術館 地下1階県民ギャラリー

5月27日アメリカのオバマさんが広島に見えました。広島が平和の地として世界に広まりました。書の文化はこの会場から発信されます。その文化を通して、芸術性が理解されることを念頭に、会場は多くの鑑賞の方々に埋め尽くされました。



開展式前会場風景



開展式テープカット



大楽華雪 毎日書道会常任顧問による作品案内



今年の毎日書道展は去年と比べ一般の公募作品数はずいぶん増えております。出品数が増えているという事は、毎日書道展に魅力を感じて出品しようという人が増えている証拠であり、会場で出品作品を是非見たいという人も増えているわけです。書道の愛好家ファンがたくさん増えていくことは関係者もうれしいことです。書の幅が広がってきた毎日書道展は漢字から前衛書までずいぶん作品の傾向が広がり幅の広いことにあります。見ていて楽しいと同時に、それぞれの作者の、自分の個性を生かした非常に意欲的な作品が多いのです。新しい書、現代の書を構築し、自分自身を個性的にしている作品になっています。書の作品を見るという事は、作品を通じて作品の裏にある作家、書いた人と見て下さる人が、作品を媒介としてつながっていることが、書の鑑賞になります。何度も足を運んでいただき見ていただきたいと思ひます。ご家族、お友達を誘ってお越しください。

■ 特別陳列 現代書道の父「比田井天来」



森須園 顧問による特別陳列の解説

ここに島根県立高等女学校と書かれている表札があります。比田井先生は、浜田へ昭和8年に来られました。その学校が私の母校に当たります。島根県に一番初めにできた女学校、島根県立高等女学校。できたのは明治33年、それ以来私たちは比田井小琴先生、比田井先生の奥様のお手本で書を学びました。浜田の高等女学校は立派な先生が全国からたくさん集まっておられたので、比田井先生とも関わりがあったようです。昭和8年にこの表札を書いてほしいと時の校長が頼んだところ快く書いて下さったそうで、先輩が卒業記念に書いたものです。私たちは、入学したときはすぐ校門の前でいわく因

縁を聞いて立派な女学校になったと思い、誇りを持っておりました。その後もずっと見ておりましたが、昭和 24 年に学生改革が行われ、浜田高校に校名が代わり門札がなくなりました。ところが私が昭和 50 年頃、浜田高校で書道の教師を退職後、偶然にもこの門札を見つけ出し、書道教室に貸し出してもらいました。貴重なものであるので桐の箱に入れられて大切に扱われております。



今年、現代書道の神に代表される比田井天来の晩年の傑作である、島根県の隠岐の島にある石碑の拓本を展示しております。日本史の教科書にも後醍醐天皇が島流しにあったときに、隠岐の島に滞在していたとされその文字を書いたのが比田井天来と言われております。晩年の貴重な作品が本土で展示されるのは今回が初めてです。天来さんのお孫さん、和子さんの解説もありますので、是非また起こし下さい。

顕彰式・祝賀会

日時 8月23日(火) 午後0時半～
会場 リーガロイヤルホテル広島・4階ロイヤルホール

■ 顕彰式 午後0時半～午後1時20分

一華会会員では、顕彰式でグランプリである会員賞受賞の大楽悠雪さん(漢字部)・毎日賞受賞の榎岡紫風さん(前衛書部)、佳作賞受賞の佐藤由身子さん(前衛書部)・佐藤光邦さん(漢字部)に記念品が授与された。

大楽華雪 毎日書道会常任顧問による総評



入賞・入選の作品も多く、とりわけ役員の出品作が多くでたという事は中国展ではうれしい限りです。900点という大数の力作を展示でき、盛大にスタートすることが出来ました。入賞された方、また、入選された方、心からお祝いを申し上げます。作品は漢字から前衛まで非常にバラエティーに富んで、新鮮で、個性的なものが中国展でも集められました。作品が個性的で力作であることをうれしく思います。

毎日書道展はわが国を代表する展覧会であり、最大で最高の展覧会であるという事を追加いたします。たくさんの作品が集まるという事は切磋琢磨が出来ているという事であり、切磋琢磨することによって作品の質が高まるからです。従って最大で最高の毎日書道展に、これからも関係者のみなさんと大いに頑張って、力作を発表してください。入賞、入選されたみなさん、改めておめでとうございます。

・ 会員賞受賞記念品授与



大楽悠雪さん

・ 毎日賞記念品授与



槇岡紫風さん

・ 佳作賞記念品授与



佐藤由身子さん・佐藤光邦さん

・受賞者謝辞



受賞者代表で謝辞を述べる 大楽悠雪さん

あまりにも大きな出来事に、戸惑いながらも表現しがたいものと大きな喜びに浸りました。賞を頂いた責任の大きさを感じ、現代の自分自身に問いかけ、これを機に研鑽精進を重ねていく将来の自分自身への言い聞かせとなりました。

■ 祝賀会

比田井天来の孫 比田井和子様ご紹介・挨拶



比田井天来が隠岐へ行って、黒木御所の石を書いてきたのは昭和 11 年 8 月 21 日です。1936 年 ちょうど 80 年前、8 月 21 日でした。黒木御所に行って、後醍醐天皇の話を聞きました。その時の天来は、妻 小琴、を含め 4 名での旅でした。その黒木御所遺址を書いた時の記録が残っていますが、スケッチで草稿の様なものがあり、その時に「署名をしてください」と頼まれ、「皇室の御関係の方に署名をするわけにはいかない。この字を見れば、天来の字と解ります」と言ったそうです。

比田井天来は生涯にわたって、筆法を変え続けていました。大正 10 年に俯仰法を学び、62 歳くらいには、俯仰法で羊毛筆を使うようになりました。そこからの作品が天来の生涯の作品になり、最も優れているといわれるようになりました。昭和 11 年、羊毛筆で代表する作品と思われます。私も黒木御所の遺趾に行ったことがあります。威圧する作品ではなく、今でもみずみずしい作品で、その風景を思い起させる、人間と自然が一緒になって何かを作るような、温かい雰囲気を感じます。そして、ガラスケースの中の天来の最高作色紙。がんの宣告を受けて、入院し手術後末路に書いたものが 10 数枚あります。その中の 2 点が展示されています。

受賞者のみなさんと一華会会員の集合写真



受賞者による席上揮毫

■ 席上揮毫

日時 8月27日(土) 午後0時から
会場 広島県立美術館 地下1階県民ギャラリー

● 高校生の部 (明誠学院高等学校書道部)

・揮毫の部

部員による揮毫は、仮名 漢字の創作 仮名の古典臨書 扇面への散らし書き 篆刻 漢字仮名交じり等、繊細な作品を書き上げた。



・パフォーマンスの部

小森香澄さんの歌詩「窓の外には」をもとに、手話を交えて書き上げた。



北魏ならではの鋭い線や力強さを見ていただきたい。岡山ゆかりの良寛の暖かさを表現したい。本校の書道部は余白を大切にし、様々な黒い線での表現と、読めるという事に重きを置いて書きます。と、力強く堂々と揮毫した。

大楽華雪先生による講評



揮毫ぶりを拝見し、書を通して素晴らしい感動を致しました。これからどんどん進んでいく皆さんの未来を祝福いたしたいと思います。どうぞ書続けてください。多彩であります。一生懸命、書と向き合っていて楽しんでいることに、心から感動いたしました。これからも書の形を見せて下さい。高校生が、書を通してこんなに頑張っている姿は、会場の皆さんにも十分感動を与えたと思います。

● 一般の部



席上揮毫される皆さん

一華会会員の佐藤光邦さん（奎星会に所属し今展で漢字部佳作賞）による席上揮毫



毎日残暑厳しい中、これからの秋を思い、物静かな様子に心と和むようにと願って書きました。

大楽華雪先生の講評



漢代の隸書作品ですが、躍動的でいい作品に仕上がりました。観覧されているみなさんのお顔を拝見し、皆さんの目がきらきらと輝き、一生懸命に必死で揮毫の様子を見ておられました。まさに揮毫した人と、見て下さった皆さんとが一体となったように感じます。それだけで、書家の皆さんの揮毫は大成功であったと思います。充実した、良い時間を有難うございました。